

2025年3月期第3四半期決算説明会 主なQ&A

【今期決算・通期予想】

- Q. 連結営業利益は現時点で通期予想を上回っているが、4Qは赤字になるのか。
- A. 鉄道事業は例年4Qに修繕費等が偏る傾向に加えて、今期は不動産関連の修繕や広島プロジェクト開業に伴う費用も発生するため、現時点では4Qは赤字の計画。
- Q. 3Qは近畿圏・山陽新幹線ともに好調な印象。来期以降の鉄道利用の見立ては。
- A. 近畿圏は、平日・休日ともに好調であり、定期利用も想定をやや上回る状況。山陽新幹線は、コロナ前2019年比のご利用実績が1Qおよび2Qは9割前後に対し、3Qは99%まで伸ばしたほか、1月（～28日）のご利用状況も19年比94%の水準。来期以降の見立てとして、夏場の猛暑を避けて秋にご利用がシフトした動きは季節性トレンドの要素になる一方、台風や南海トラフ地震臨時情報等の自然災害影響、年末年始の曜日配列等は特殊要因として考慮する必要がある。

【大阪プロジェクト】

- Q. 大阪プロジェクト開業に伴う定量的な効果は。
- A. 今期は、大阪プロジェクト開業に伴う経費として通期60億円程度（減価償却費含む）を想定しており、来年度以降の段階的な利益貢献を期待している。足元では、オフィスリーシングや商業施設売上は想定を上回って進捗、大阪ステーションホテルは、立ち上がりの収支はやや苦戦しているものの、食事も含めた評価は高く、プロジェクト全体としては順調に進捗している。

【インバウンド】

- Q. インバウンド収入の進捗状況は。グループ事業への波及効果は。
- A. インバウンド運輸収入は好調であり、現状のトレンドが持続すれば通期想定370億円を上回る可能性もあるが、為替影響等を引き続き注視したい。モビリティ業以外では、主に百貨店、ショッピングセンター、ホテルで客単価押上げやインバウンド比率上昇に伴うプラス影響が発現している。今後もインバウンドが増加していけば、当社グループ全体へのさらなる効果波及も期待できる。
- Q. 来期以降のインバウンド収入は、万博反動減があっても伸長する見立てか。
- A. 万博による反動減の可能性はあるが、訪日旅客数全体としてはさらに伸長していくことを期待したい。関西空港の発着枠が25年春以降に3割増加することもあり、インバウンド収入の拡大に向け、西日本エリアへの誘客促進の取り組みを引き続き推進する。

【大阪・関西万博の影響】

- Q. 万博開催に伴う当社への収支影響は。来場者数の想定等の考え方は。
- A. 収支影響は現在算定中だが、過去のイベント開催事例や当社の各種施策効果等を踏まえて想定していく。万博来場者は、万博協会発表では2,820万人を見込むが、万博開催期間終了間際にお客様が増える等の来場数の偏りがあるほか、予約の間際化等により現時点で見通すことが難しい。

【中期経営計画 2025 アップデート】

- Q. 万博効果を除く中期経営計画 2025 アップデートでの来年度利益目標の達成が厳しいとのコメントもあったが、各セグメントの進捗状況は。
- A. モビリティ業においては運輸収入が想定並みに推移。流通業およびショッピングセンター業は想定を上回る水準。他方、事業ポートフォリオの再構築に向けて推進している新規事業の費用先行や、人財確保のためのコストが想定以上に増加している等のマイナス影響もある。

【自己株式取得】

- Q. 自己株式取得に関する検討状況は。
- A. 中期経営計画の進捗状況を見極めながら残り 500 億円の自己株式取得を実施する方針に変わりはない。実施判断においては、中期経営計画の進捗に伴いキャッシュフローを生み出せている状況か、出資を含めた成長投資案件との兼ね合い、財務健全性等を勘案する必要がある。また、株価や EPS、ROE の水準も考慮したうえで、成長と株主還元のバランスを踏まえて判断していきたい。

以上